

8月6日 ローマの信徒への手紙 12章 9～21節

説教題：「善をもって悪に勝ちなさい」

本日の聖書箇所、ローマの信徒への手紙 12章では、私たちが愛をもって何をすべきなのかが語られています。まずパウロは「愛には偽りがあってはならない」、愛が完全であることを最初に強調しています。愛とは神様に属するものであり、だからこそ表面的に取り繕うことは、人間のことを騙すことはできても、神様を騙すことはできません。そのように、誰かに見られていないときに好きなように振舞うことは、神様の霊による行いではなく、いわば「悪霊」に支配されて行うことであり、私たちがそのような行いを避けるべきなのです。

その愛の行いは、究極的に、「あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい」という、私たちの理性では決して受け入れることのできない状況へとたどり着きます。

パウロは、ダマスコに向かう途中でイエス様に出会ったことによって回心へと導かれました。ただ、そこに至るまでの経験も、パウロにとって大きなものだったのでしょう。パウロは迫害者の立場で、「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と、殉教のその瞬間まで祈るステファノのことを見ていました。石を握って、投げつけるその時も、「自分が祈られていた」という経験は、パウロの心に強く刻まれていたことでしょう。パウロの回心には、この祈りの経験が不可欠だったのです。少なくとも、そのようにパウロが受け止めていたからこそ、自分が確かに祈りによって信仰に導かれたという確信があったからこそ、パウロもまた「祈りなさい」と勧めているのです。

だからこそ、続けて語るパウロの、「自分を賢いものとうぬぼれてはいけない」という言葉が、私たちの心に突き刺さってきます。自分こそが正しいと、パリサイ派こそが正当な信仰であると自負を持っていたパウロの言葉だからこそ、私たちはこの言葉を真剣に受け止めなければいけません。私たちも同様に、自分が正しい信仰を持っている、相手の方が間違っているといううぬぼれに陥ってしまわないように気を付けなければいけません。

そのように、愛を受けて、愛を実現した先にあるのは、私たちの「勝利」であります。ただ、「善をもって悪に勝ちなさい」、それはこの世の悪に対して言えることでもあります。私たち自身にも問いかけなければいけない事でもあります。私たちの中にも多くの悪があり、欲望があり、楽なことを求め、他人の物を欲しがり、他人よりも強いことに、正しいことに快樂を覚える、汚い心が私たちの中にあるのです。

その悪の心に打ち勝つことができるのは、善なる神様だけであり、神様の霊によって清められることによって、私たちは本当の意味で欲望から解放されて生きることができるようになるのです。神様によって、イエス様によって強められた私たちの心は、その信仰のあかしとしての「愛の業」を行うことができるようになります。裏返せば、その愛の業を行うことができているつかの間、私たちは「今はちゃんとキリスト者として生きることができている」と、安心することができるのです。

私たちはそのように、ただ愛の業を行えばいいのです。心に暗いことを思ったとしても、そのような人に対する復讐は神様が行ってくださることです。だから私たちは、どんな人に対しても善人として、愛をもって接するのです。悪人が、悪人であることをみじめに感じるほどに、私たちの心が悪を好むことをみじめに感じるほどに、私たちは愛を行うのです。それが、善をもって悪に勝つ、私たちができる最も素晴らしい、確かなキリスト者としての戦い方、生き方なのです。私たちにはそれができます。キリスト者なのであれば、できるのです。

一日一善とは言いません。まず一つ、愛の業を行いましょ。そのために、この世へと出ていきましょう。神様に強められて、霊の力を受けて、新たな一週間を歩いていきましょう。

今日の説教箇所：ローマの信徒への手紙 12章 9～21節

- 9:愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。

- 14:あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。「『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」と書いてあります。「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。